

No. 192

令和2年12月21日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



30の一年を振り返って

令和2年(2020)年も、残すところあと10日となりました。新型コロナで始まり、新型コロナで暮れようとしているこの一年を、ちょっとだけ振り返ってみたいと思います。

年明け早々「中国湖北省武漢で、得体の知れない肺炎が流行し死者も出ている」という知らせが届きました。この頃、まだほとんど全ての人は「対岸の火事」として捉えていたのではないのでしょうか。それが、東京都内で屋形船のクラスターが発生し、日本も他人事ではないことに気づかされます。

2月に入り横浜港に停泊していた大型クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号内で大規模なクラスターが発生したとの報道を受け、日本国内の緊張感は一気に高まりました。そして、2月27日。安倍前首相による全国一斉の臨時休校要請が表明されました。

その直後の卒業式をどうするかに始まって、学校現場は相当混乱しました。臨時休校の措置は二度延長されることになり、結局5月の末まで生徒が登校しないという異例の事態となりました。教育活動は大幅に見直しを余儀なくされ、予定していた学校行事は、全てイレギュラーなかたちでの開催となりました。ただ、リスケされた行事は、ほぼ計画どおりに実施することができました。生徒たちも変更を受け入れてくれ、その行事ごとともてる力を存分に発揮しようと取り組んでくれました。職員の皆様、生徒たち、そして後ろで支えてくださった保護者や地域のかたがた全てに感謝の気持ちでいっぱいです。心の底から「ありがとうございました」を伝えたいと思います。

さて、12月1日、年末恒例の「新語・流行語大賞」が発表されました。大方の予想どおり大賞に選ばれたのは**3密**(密閉、密集、密接)でした。トップ10入りしたのは「3密」のほか、「愛の不時着」「あつ森」「アベノマスク」「アマビエ」「オンラインOO」「鬼滅の刃」「GoToキャンペーン」「ソロキャンプ」「フワちゃん」

でした。コロナで始まりコロナで暮れようとしている年だけに、新型コロナウイルス関連が五つもトップ10入りしました。

ちなみに昨年の「新語・流行語大賞」はなんだったか覚えていませんか？言われてみれば「あー、そうだった」と思い出すのでしょうか、人間の記憶はいいかげんなものですね。

12月14日には、年末の風物詩となっている「今年の漢字」が発表されました。今年の漢字も新型コロナウイルス感染症に関連した「密」が選ばれました。トップ10入りしたのは「禍」「病」「新」「変」「家」「滅」「菌」「鬼」「疫」でした。「滅」と「鬼」以外は新型コロナウイルス関連でした。あなたは、今年の漢字としてどんな漢字を選ぶでしょうか。私は2位にランクインした「禍」を選ぶかなあ。ちなみに、昨年の漢字は何だったでしょう。思い出せますか。



写真は <https://mainichi.jp/>より

さて、今日12月21日は「冬至」です。一年のうち夜の時間がいちばん長く、昼の時間がいちばん短い日です。「柚子湯に入ると風邪をひかずに冬を越せる」と言われています。また、なんきん(南瓜=かぼちゃ)、にんじん(人参)、れんこん(蓮根)、ぎんなん(银杏)、きんかん(金柑)、かんでん(寒天)、うんどん(うどん)の「ん」が重なる食べ物は、「冬の七種(ななくさ)」と呼ばれ、縁起がよいとされて好んで食べられてきました。こうした風習は、後世に残しておきたいですね。